

## キーワードの絞り込み

## 絞り込んだキーワードは「腐植土」「不思議なもの」

「魚を育てる森」の授業では、森林と河川とのつながりについて考えていくために、繰り返し出てくる言葉として「腐植土」をキーワードとして取り上げることになりました。それは、腐植土に着目し、何が腐植土を作り、腐植土が何を海にもたらすのかを押さえながら、腐植土の存在とその役割について読み進めていくことが、森林と海の生物のつながりをとらえることにつながるからです。

「スーパービート板」の授業では、教材研究の段階で、次の部分を授業で取り上げ、着目することになりました。

## ◇ クラスメートと筆者の関係を考えるために

「ほら先生、あそこのおばさんたち、泣いているよ。」その目は、いかにも不思議なものを見るような目だった。

## ◇ 担任の先生と筆者の関係を考えるために

・・・大声でどなっていた。「1分57秒。いつもより、全然遅いじゃないか。」

上記の段階では、まだまだ概念で考えることから抜け切れずにいました。そこで、再度キーワードを絞りに絞って、「いかにも不思議なものを見るような目」としました。「不思議」に「いかにも」という修飾語がついているので、その中でも中心は「不思議なもの」です。

この「不思議」を読み解くには、もう少し前の「広いプールに～感じだった」を読み解いていく必要があります。なぜなら、「ほかの二校からは改めて拍手が送られる。なかなかやむことのない最大級の拍手だった。」が大切で、それを読み解いていく必要があるからです。

実際に授業を行ってみると、着目すべきキーワードを「不思議なもの」に絞っているため、一つのことについて集中して考えており、ずれることはありませんでした。生徒が一生懸命考えてくれて深まりました。

ところが、教師の読みが浅いために、概念で考えている生徒に適切なアドバイスができませんでした。教師自身がさらに読み深めていれば、もっと柔軟にアドバイスができたはずです。キーワードを絞り込み、まさしく一個を見つけるのは、教材研究の深さであり、教師の眼力です。

## キーワードとは何か

キーワードとは「文章などを読み解く上で重要な鍵となる語」のことを言います。「分けいつても分けいつても青い山（種田山頭火）」なら、「青い」です。この「青」にさわやかさを感じたとき、山頭火の心境に近づくことができます。これが読み解く鍵になります。つまり、キーワードです。キーワードに気づき、キーワードを取り上げることができれば、学習の効率と質は飛躍的に高まります。

授業を充実させる鍵は、この「キーワードを的確に見つけ出し絞り込む」ことにあります。教材研究によりキーワードを絞り込みます。これが授業改善の第一歩です。絞り込んだキーワードを持たずに授業に出るのは、自ら授業を放棄しているようなものと言わざるを得ません。